認知度向上へ講習会など実施

日本スポット溶接協会

講習会の様子

竹本禎久代表理事

一般財団法人日本スポット溶接協会（本部名古屋市緑区鳴海町大清水69の157、竹本禎久代表理事、電話052・684・8688）は、技能実習生や若い世代の技術者らを対象に「スポット溶接」に関する基礎知識の普及浸透に力を入れている。技術の伝承が目的。8月に工業高校の教員を対象にした講習会を初めて開催するほか、スポット溶接専門の職業をつくることを最終目標に高校生と技能実習生を対象としたスポット溶接の検定試験を作成している。（中村光希）

スポット溶接は、自動車や家電など多種多様な製品に必要とされる技術だが、原理などが多くの技術者に知られていないといった課題があった。基礎知識を知らないままだとトラブル時に対処できない、ベテラン技術者が引退した際に正しく扱えないなどの問題が発生する懸念があった。

こうした課題解決のため、同協会は21年1月に、愛知県立総合工科高等学校の専門科生徒（約40人）に、スポット溶接の原理など基礎知識を解説する講演を実施した。

これを皮切りに、知識の普及浸透に力を入れ、同年10月から今年3月までの半年間で10回、技能実習生や若手技術者らを対象に技術講習会を開催し、累計で10社、50人が参加した。今後も、同講習会を年に5～10回ほど継続的に実施していきたい考えだ。

また、8月23日には、公益社団法人全国工業高等学校長協会が主催する「夏季講習会」の研修の一つとして、高校教員を対象とした「抵抗スポット溶接講習会」を開く。教員向けとすることで、若手技術者への知識拡散を期待している。

さらに、スポット溶接の検定試験の作成にも取り組んでいる。筆記試験と実技試験を行う予定。検定の実施で、スポット溶接を扱う仕事への就職の動機付けとしたい狙い。試験は、2024年中に行いたい考え。

竹本代表理事は「スポット溶接という技術を、未来につなぐ責任を果たしていきたい」と語った。

新会長に山口高広氏

愛知県中小企業団体中央会

抱負を語る山口新会長

愛知県中小企業団体中央会は12日、名古屋市中村区の名古屋マリオットアソシアホテルで「第68回通常総会」を開催した。県下中小企業組合関係者ら約140人と来賓約40人が出席した。総会では、2023年度の事業計画などを承認したほか、役員改選を行い、新会長に山口高広氏を選任した。会長交代は6年ぶり。前会長の長谷川正己氏は任期満了により退任した。

選出された山口新会長は「県内の中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい。中小企業組合の中核的な支援機関として、中小企業が抱える課題の解決を図っていきたい」と抱負を述べた。

また、23年度の重点事業としてインボイス制度をはじめとする諸制度の改正対応支援や事業継承支援、若手後継者・女性経営者の人材育成などに取り組む方針を掲げた。

昇降機設置、結論先送り

名古屋城天守の木造復元

名古屋市は12日、名古屋城天守の木造復元に関する全体整備検討会議を開いた。市が導入する方針の小型昇降機の設置階数について結論を出さず、整備基本計画の了承は見送られた。3日の市民討論会では、障害者に対する差別的な発言が参加者から出た。市は時間をかけてバリアフリー対応を検討する必要があると判断した。

3日の討論会では車いすの男性が「今まであった昇降機をなくすのなら、障害者排除としか思えない」と訴えた。これに対し、別の男性参加者が昇降機は不要と反論。「我慢せえ」と発

名古屋
情報は名古屋デスクへ
TEL052(561)5212
FAX052(561)5207
WEBでの申し込み
中部経済
検索
名古屋の
デザイナーズ・高級賃貸専門
Limited
リミテッド
名古屋
▲詳しくはこちら
S-POINT